事業報告 （NPO 法人バランス 21）

2012年度～2021年度（総会資料より抜粋）

2012年1月～12月・谷当里山計画活動報告

2012年

●1月　作業日：4日・7日・8日・9日・14日・15日・21日21・22日・28・29日
（各土・日10時～15時）耕作放棄地お草刈り

●2月　作業日：18日・19日・26日・25日（10時～15時）
学習会：25日（セミナー）谷当工房於いて（13：30～16：30）
テーマ：**「冬期湛水が田んぼの生きものに及ぼす効果」**
林　紀男氏　（千葉県立中央博物館）
「下総台地の松林と薪炭生産-明治10年代、武蔵野台地と対比しつつ一」
白井　豊氏　（千葉県立中央博物館）

●3月　作業日：3日・4日・5日10日（種もみ作業）（草刈り・かたずけ）
17日・18日・20日・21日・24日(午後から里山寄席に参加)
31日（種まき・育苗作りの準備）

●4月　作業日：1日～毎週　苗作り、種蒔き、除草用乳酸菌培養、水苗代作り、苗箱を田んぼに移動、畦作り、草刈りクズの蔓の整理、大仕事でした。
講演会：8日・キックオフシンポジウム開催　（参加者：８０名余）交流会（３０名）
講　演：**「究極の田んぼ」**岩澤信夫氏（日本不耕起栽培普及協会代表）
（岩澤さん入院のため講演者：**鳥井報恩氏にお願いしました。**
報　告　**「印旛沼干拓地での冬期湛水試験結果」**　中村俊彦氏（千葉県立中央博物館副館長）
「里山保全のための新しいメカニズム、里山バンキングと HEP-千葉市若葉区での谷津田再生を通して」　久喜伸晃氏（東京都市大学大学院研究生）
会　場：千葉県立中央博物館講堂

●5月　作業日：3日・4日・5日・6日（手植え）、２０日(田植え機)
1日・12日・13日・19日・26日（水管理、田んぼ整備）
やっとこぎ着けました。５月の連休中は雨りもあり、それは、それは、大変なことだった。

●6月　作業日：2日・9日・24日（除草はチエンを作って（金親さん、阿部さん）作業をしました。田植えから女学生や若者、子どもの参加者がありました。
11日・18日（へそまがり大豆苗づくり）

●7月　作業日：14日・15日・29日上の田んぼにソバの種を蒔こうとで草刈りに励みましたがが、田んぼに水が多く作業は進みませんでした。
協　力：里山の集い（ロータリークラブ主催）に参加しました。

●8月　作業日：11日・25日・26日東の田んぼの奥に残土投棄の動きがあり、急遽、東の田んぼの草刈りに移行しました。水が多く、水抜きをする方法を捜すことになりました。この田んぼには、ヘイケホタルが舞うことが確認でき、水路の流水が豊かで澄んいることが確認できました。七夕飾り（旧暦）を作って、それぞれ、願いを短冊にしたためました。「そばが食べたい！」の願いが多く、しかし、残念ながら水はけがうまく出来ないことから「そばの種蒔き」は見送りとなりました。
協　力：里山寄席（谷当グリーンクラブ。主催）参加しました。

● ９月　作業日：8日・23日・29日・30日　いよいよ、収穫の準備（東の田んぼの整備で切り倒した竹を利用しておだがけを作りました。８月に「ちば自然学校のシニア大学」の講座で谷当にこられた受講生と講師の方が、バランス21の活動に参加するとになり、３人会員として迎えることが出来ました。

台風の接近を心配しながら9月29日・30日で稲刈りを終了しました。

● 10月 作業日：2日・13 日・23日・28日　ついに、食べられるお米に成りました。２日の作業日（５８０k）３０k×１８袋　この日はみんな特ににこにこ顔になりました。

６０kの種も残しました。（２０１３年の播種に向けて）

イベント参加：10月20・21日は、３カ所のイベントがあり、分担して参加しました。

イベント　　：10月27日は待望の収穫祭でしたが、様々なところでイベントが重なり、参加者は３０名でした（目標は50名）近隣の家族の参加もあり、浦安から会員を１名を迎えることができました。（会場：谷当工房のキャンプ場）

● 11月　作業日：6日・10日・20日・25日　集中作業日は古代米の稲刈りとおだがけ、脱穀、もみ乾燥、作業をしました。13日（阿部さんのヤギのマイケルの樹木葬をしました）。

●12月 作業日：４日・８日・9日（ユンボ作業）18日・23日　上の田んぼの水抜き作業準備、斜面林の枝落し、水路の泥あげ作業。堂谷津の池の調査（千葉市環境保全課を案内する）

臨時社員総会：6日（18：30〜21：00）場所：ちば市民活力創造プラザ

今後の活動に向けて、理事の増員と事務所変更の確認、事業のふりかえり意見交換。新理事６名任命。９名の理事で運営することになりました。

事務所は千葉市若葉区谷当町70（金親宅気付）TEL&FAX：043−２３９−０６４

イベント：　22日古代米（緑米）もちつき開催。地域の子供会の４家族の参加があり、賑やかな餅つきの集いとなりました。（25名参加）内１会員増員。（会場：谷当工房）

15時〜第１回新生理事会を開催。役割分担と議事進行の方法を検討しました。

２０１３年（集中作業日が増えることになりました。毎週（火）第１（土）第３（日）

● その他の活動

毎月、理事会開催（第２（土）16：30〜18：00　or　10：00〜13：00）集中作業日後

NPO法人基本講座の受講（8月〜12月（全８回）

地球環境基金講座：環境NGO・NPOレベルアップの受講（11月〜１月（2013年（全５回）

記：NPO法人バランス21谷当里山計画　理事長：佐藤聰子

第１号議案

平成２５年度事業報告書

特定非営利活動法人バランス２１

１　事業の成果

平成25年度は設立2年目に入り、事業の安定化と充実を目指し、初年度事業を継続的に実施した。

イベント事業については、田植え・稲刈り・収穫祭・餅つき等のイベントを実施し多くの都市住民、若者、子供たちの参加を得た。

里山再生事業については、いのちの壱・みどり米・黒米の３品種を栽培した。また、水源である堂谷津の池の整備をするため調査を開始し、漏水防止策を講じた。里山林についても一部アズマネザサなどの下草刈りを行った。

教育・研究調査事業については、自然観察会を行うとともに、生き物や水質等のモニタリング調査を開始した。

２　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額額（千円）
イベント事業	種まき大会	4月6日	若葉区谷当町堂谷津	10	市民13	184
	田植え大会	5月3，4，5日	同上	13	市民、児童等58	
	稲刈り・収穫祭	11月3日	同上	15	同上53	
	餅つき大会	12月22日	谷当工房	12	同上34	
	ちばユニバーサル農業フェスタ	10月26日	四街道市市民文化センター	8	市民・関係団体230	
	ちば市民活力創造フェア	11月16，17日	きぼーる	5	市民200	
里山再生事業	三品種の米の栽培 里山林、堂谷津の池の整備	毎週火曜日、第1土曜日、第3日曜日	千葉市若葉区谷当町堂谷津	延530	市民延550	846
教育・研究調査事業	自然観察会	7月28日	千葉市若葉区谷当町堂谷津	8	5	51
	蛍観察会	8月3日		8	10	
	水環境調査	9月24日		4	4	

第１号議案

平成２６年度事業報告書

特定非営利活動法人バランス２１

１　事業の成果

平成 26 年度は「千葉市谷津田の自然の保全に関する要綱」に基づく「協定」を地元、千葉市と当 NPO の 3 者により 10 月 1 日に締結した。

イベント事業については、田植え・稲刈り・収穫祭・餅つき等のイベントを実施し多くの都市住民、若者、子供たちの参加を得た。

里山再生事業については、いのちの壱・みどり米・黒米・赤米の 4 品種を栽培した。里山林についても一部アズマネザサなどの下草刈りを行い、1 本の散策路を整備した。

教育・研究調査事業については、自然観察会を行うとともに、生き物や水質等のモニタリング調査を通年にわたり実施した。

２　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額額（千円）
イベント事業	種まき大会	4 月 5 日	若葉区谷当町堂谷津	10	市民 14	257
	田植え大会	5 月 3，4 日	同上	32	市民、児童等 156	
	稲刈り・収穫祭	11 月 2 日	同上	18	同上 42	
	餅つき大会	12 月 21 日	谷当工房	11	同上 13	
	ちばユニバーサル農業フェスタ	11 月 22 日	四街道市市民文化センター	8	市民・関係団体 230	
	ちば市民活力創造フェア	11 月 15、16 日	きぼーる	6	市民 200	
里山再生事業	三品種の米の栽培 里山林、堂谷津の池の整備	毎週火曜日、第 1 土曜日、第 3 日曜日	千葉市若葉区谷当町堂谷津	延 611	市民延 550	589
教育・研究調査事業	自然観察会	毎月 1 回	千葉市若葉区谷当町堂谷津	48	525	41
	蛍観察会	7 月 21 日，8 月 2,12 日		9	10	
	水環境調査	年 3 回		8		

第１号議案

平成 27 年度事業報告書

特定非営利活動法人バランス２１

１　事業の成果

平成 27 年度は事業開始後 4 年目にあたり、作業やイベント等も定例化、定型化が進み、事業の安定化が図れた。

イベント事業については、田植え・稲刈り・収穫祭等のイベントを実施し多くの都市住民、若者、子供たちの参加を得た。

里山再生事業については、いのちの壱・黒米・ヒメノモチの 3 品種を栽培した。里山林については懸案であった溝ぐされ病などで倒木の危険のある杉等を、助成金を得て伐採し、開けた場所に森の休憩所を整備することができた。一部アズマネザサなどの下草刈りを行い、散策路や小広場を整備した。

教育・研究調査事業については、一般参加者による自然観察会を初めて行うとともに、生き物等のモニタリング調査を通年にわたり実施した。 また、東京情報大学と連携して不耕起栽培の講習会を 3 回、里山再生の講演会を 1 回開催した。そのほか、ビオトープづくりや古代米栽培について有識者から指導を受けるとともに、内部で米作りの検討会も開催した。

２　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額額(千円)
イベント事業	種まき大会	3 月 31 日	谷当町堂谷津	11	市民　6	263
	田植え大会	5 月 3,4,6,19 日	同上	60	市民、児童等 217	
	稲刈り	9 月 1,22 日 10 月 11 日	同上	41	同上　64	
	収穫祭	11 月 3 日	同上	21	同上　8	
	ちばユニバーサル農業フェスタ	11 月 23 日	四街道市市民文化センター	9	市民・関係団体 230	
里山再生事業	3 品種の米の栽培 里山林、堂谷津の池の整備	毎週火曜日、第 4 土曜日	千葉市若葉区谷当町堂谷津	延 645	市民延 348	1,762
教育・研究調査事業	自然観察会	毎月 1 回 10 月 11 日	千葉市若葉区谷当町堂谷津	52	11	164
	講演会等	3 月 14,28/4 月 3 日/7 月 21 日		32	48	

第1号議案

平成28年度事業報告書

特定非営利活動法人　バランス21

1、　事業の成果

平成28年度は、事業開始から5年目となり、作業やイベントを定期的に実施することが出来るようになりました。里山再生事業のメインである耕作放棄地を田んぼに再生する事業も軌道に乗り、一定量のお米を収穫することができました。里山整備については、この地域の実際の地形が目で見ることが出来るように、全体のジオラマを作成しました。作業としましては、下草の刈取り等を進め、散策ルートを整備し、みんなが集える広場も出来ました。

イベント事業につきましては、田植え・稲刈り・収穫祭等を実施し、近隣住民の方や子供たちの参加を得、地域との連携を図りました。

教育・研究事業につきましては、イベント事業と連携して自然観察会（植物観察、ホタル観察等）を行いました。また定期的にアカガエル、トンボなどの動物・昆虫、自生植物の観察をし、豊かな自然を残す取り組みを行いました。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（単位千円）
里山再生事業	米の栽培 里山林	毎週火曜日、第2・4土曜日	千葉市若葉区谷当町	延べ689	市民延べ30	1207
イベント事業	種まき 田植え 稲刈り 収穫祭 ちばユニバーサル農業フェスタ	4月2日 5月1、3、4、7、10日 8月27日、9月28日、10月8日 11月3日 12月4日	千葉市若葉区谷当町 同上 同上 四街道市市民文化センター	14 58 26 14 6	市民3 市民・児童236 同上116 同上33 市民・関係団体300	140
調査・研究事業	自然観察	毎月1回及び イベント時	千葉市若葉区谷当町	延べ35	市民125	46

5/23
理事会
承認

平成29年3月期事業報告書

特定非営利活動法人 バランス21

1、 事業の成果

平成 29 年度に入り、田んぼや山林は来年度に向け準備に忙しい時期となりました。田んぼ事業は冬期湛水方式なので水が切れないよう管理を行いました。また4月の種まきに向け苗箱、苗土に準備をしました。

里山整備については、散策ルートの確認、倒木の除去などの整備を行いました。

教育・研究事業につきましては、希少植物の保全を中心に観察を継続的に行いました。アカガエルの卵塊調査も前年に引き続き行いました。

2事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
里山再生事業	米の栽培準備 里山林の整備	毎週火曜日、 第2・4土曜日	千葉市若葉区谷当町	延べ150	市民延べ10
調査・研究事業	自然観察	毎月1回	千葉市若葉区谷当町	延べ30	市民15

総会 6月20日

平成29年度事業報告書

1、 事業の成果

平成29年度は、里山再生事業の田んぼ部門は、5月から8月にかけ雨量が少なく、湧水を水源とするため大変苦労をしました。専門家から地表に現れた湧水の有効な利用をすることが望ましいという意見をいただきました。作付けは、黒米は前年並みの 300 ㎡、もち米(ひめのもち)を増やし 906 ㎡、うるち米(いのちの壱)を減らし1,940 ㎡としました。収穫量は残念ながら前年比減少となりました。また今年度から1年を通じ親子でコメづくりと自然を体験する講座を開講し、10家族合計41名の参加を得ました。山林部門については、ゾーン別の目標林型を設定し、コナラ広場や散策路を中心に約2000㎡の下草刈りと周辺を被圧する常緑樹や枯死木の伐採を行いました。千葉県生物多様性センターと共同して山林内にコドラートを 3 か所設け植生調査を実施しました。ビオトープには、観察者のため簡易木道を設置しました。

イベント事業は、種まき・田植え・稲刈り・収穫祭等を実施し、近隣住民の方や子供たちの参加を得、地域との連携を図りました。またユニバーサル農業フェスタの参加に加え、若葉区民祭りにも出店しました。

教育・研究事業につきましては、動植物調査を継続して行い、新たに多くの種を確認できました。また貴重種の保護に努めた結果若干の増加を見ることができました。自然観察会(植物観察、ホタル観察等)を行い、自然と遊ぶ、学ぶ、楽しむことを体験できる場を提供しました。自然だよりや掲示物を通じて情報をタイムリーに発信しました。

2事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
里山再生事業	米の栽培 里山林の整備	毎週火曜日、第2・4土曜日	千葉市若葉区谷当町	延べ748	市民延べ30
イベント事業	種まき	4月1日	千葉市若葉区	14	市民48
	田植え	4月29、5月3日～7日	谷当町	36	市民・児童149
	稲刈り	8月26、29日、9月19日、10月3日	谷当町	22	同上35
	収穫祭	11月4日	谷当町	16	同上31
	若葉区民祭	11月5日	東京情報大学	6	市民・関係団体800
	ちばユニバーサル農業フェスタ	12月16日	四街道市市民文化センター		市民・関係団体300
調査・研究事業	自然観察	毎月1回及びイベント時、親子体験教室	千葉市若葉区谷当町	延べ35	市民350

第 1 号議案　平成 30 年度事業報告書、活動報告書、貸借対照表及び財産目録付議の件

平成 30 年度事業報告書

1、　事業の成果

里山再生事業の田んぼ部門は、もち米（ひめのもち）の作付けを減らし、うるち米（いのちの壱）の作付けを増やした結果、前年比でもち米は 150kg ほど減収でしたが、うるち米は 258kgの増収となりました。黒米は前年並みの 80kgでしたが、夏の暑さのためか品質に若干問題がでました。また 2 年目となる1年を通じ親子でコメづくりと自然を体験する講座を開講し、15 家族合計 52 名の参加を得ました。山林部門については、ゾーン別の目標林型を設定し、クヌギ・コナラ再生林ゾーンや散策路を中心に約 1,500 ㎡の下草刈りと周辺を被圧する常緑樹や枯死木の伐採を行いました。また、再生林には小規模皆伐した後クヌギ・コナラの苗を植栽しました。

イベント事業は、種まき・田植え・稲刈り・収穫祭等を実施し、近隣住民の方や子供たちの参加を得、地域とのつながりを高めました。また4回目となる講演会は、地域の宝を活かして地域づくりと千葉県の森林状況についての講演を実施しました。ユニバーサル農業フェスタにも参加し地域の方々と触れ合いました。

教育・研究事業は、モリタリング 1000 里地調査、コドラート調査等の動植物調査を実施、新たに多くの種を確認できました。また貴重種の保護に努めた結果若干の増加を見ることができました。自然観察会（植物観察、ホタル観察等）を春、夏、秋、冬と 4 回行い、自然と遊ぶ、学ぶ、楽しむことを体験できる場を提供しました。掲示物や自然だよりなどを通じて情報をタイムリーに発信しました。　千葉県生物多様性センターと共同して山林内にコドラートを 3 か所設け植生調査も引き続き実施しました。千葉市の委託で鹿島川の水質調査も行いました。

村落にかっていた動植物の調査を地元の 2 軒の方の協力を得て実施しました。

2、事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
里山再生事業	米の栽培 里山林の整備	毎週火曜日、第 1,3 土曜日	千葉市若葉区谷当町	延べ 903	市民延べ 30
イベント事業	種まき	4 月 1 日	千葉市若葉区	14	市民 47
	田植え	4 月 28、29,30 日 5 月 4,5 日	谷当町	36	市民・児童 125
	稲刈り	8 月 25 日、9 月 17 日 10 月 7 日	谷当町	28	同上 68
	収穫祭	11 月 3 日	谷当町	17	同上 73
	ちばユニバーサル農業フェスタ	11 月 17 日	四街道市市民文化センター	6	市民・関係団体 300
	講演会	2月16 日	東京情報大学	5	市民・関係団体 28
	米作りと自然体験	年8回の親子体験教室	谷当町	延べ 43	市民・児童 480
調査・研究事業	自然観察	4 回の自然観察会	千葉市若葉区谷当町	延べ 23	市民 120
	動植物調査	毎月 2 回		延べ 64	市民 20
	動植物の保全	毎週火曜日		延べ 120	市民 20

第１号議案

２０１９年度 事業報告

１．事業の成果

２０１９年度は気象災害の多い年であった。前年秋から続いた少雨のため湧水が枯れて一部の田では休耕を余儀なくされた。秋には強い台風が相次いで襲来し、斜面林では強風のため倒木が多発した。また斜面の土砂崩れによって用水路が寸断される被害も生じた。

本年度は里山再生事業にとって多難な年であったが、米づくりについては例年の４５％にあたる１,５００㎡で田植えを行い、斜面林については当初計画に沿って不用木の伐採や下草刈り、植林などを行うことができた。また、休耕田では随時草刈り、斜面林では助成金や市役所の支援を得て枝折れ危険木の処理を進め散策路の安全を確保するなど、「堂谷津の里」の環境維持に努めた。動植物の保全については、調査に基づいた動植物の保護、生息・生育場所の環境整備に取り組んだ。再生事業の従事者は会員を中心にのべ６１６名であった。

イベント事業については、一般を対象にした種まき・田植・稲刈り体験会、親子による米づくりと自然の体験教室（連続８回）、自然観察会、里山アート、収穫祭を実施した。また８月には自然の遊びと子供の成長をテーマに市民講座（地域と大学を結ぶ公開講座）を開催し、体験と憩いの空間「堂谷津の里」の魅力を発信した。これらのイベント参加者はのべ５９０名、イベントスタッフはのべ１２７名であった。

調査研究事業については、ニホンアカガエル・ヘイケボタルの生息数調査、モニタリング１０００里地調査を実施するとともに、県生物多様性センターのコドラート調査に協力し「堂谷津の里」の生物相について理解を深めた。また、県環境研究センターの協力を得て地層・湧水調査を実施して「堂谷津の里」の水環境の特徴を明らかにし、その一部を第２９回環境地質学シンポジウムで発表した。

バランス２１の活動基盤についてみると、会員総数は４８名（正会員２５名、賛助会員２３名）で２０１４年～２０１６年と同水準であるが、正会員に限ると当時の５０％程度に減っている。また、２０１９年度の作業従事者数（８１１人）の内訳をみると、正会員が７８％を占め正会員のうち８７％の会員は４年以上の経験年数を有している。里山再生などの事業は経験豊富な正会員を中心に進められているといえるが、このことは従事者の高齢化が進んでいることも示している。活動資金の確保とともに人材確保が今後の課題であるが、人材確保については正会員の里山再生活動の経験を生かした新たな人材確保策の検討も望まれる。

今年度、谷当里山計画は８年目を迎えたが、これまでの活動が「景観を守り育てる優れた活動」であるとの評価をうけ２月に千葉市都市文化賞・景観まちづくり部門の優秀賞を受賞した。これを今後の活動の励みとしたい。

２．事業の実施に関する事項

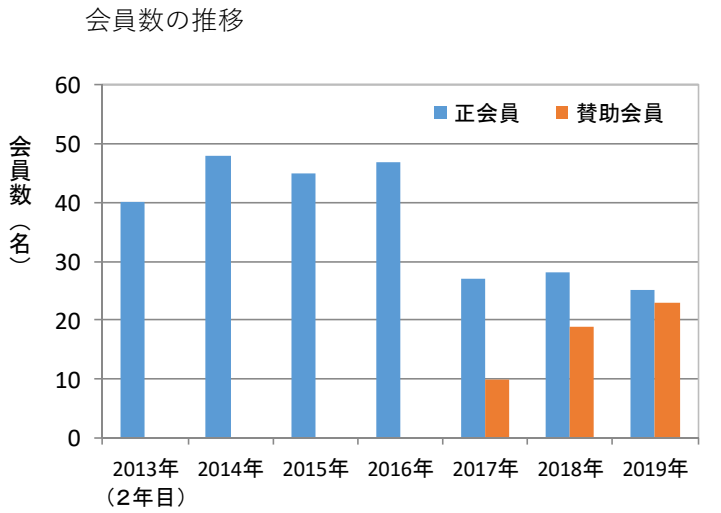
（１）特定非営利活動に関わる事業

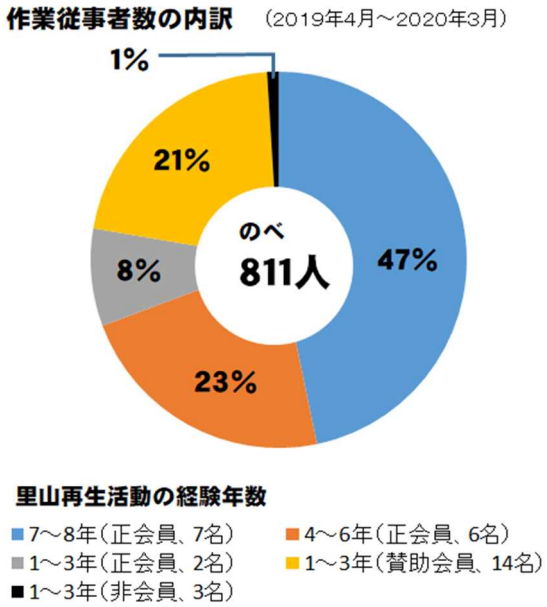
2019/4/1～2020/3/31

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益者数
里山再生事業	米の栽培 里山林の整備 動植物の保全	毎週火曜日 毎月第１，３土曜日	堂谷津の里※	616	0
イベント事業	種まき	3月30日	堂谷津の里	10	26
	田植え	4月27日，5月6日		22	122
	稲刈り	9月14日，9月15日		19	88
	収穫祭	11月3日		13	48
	親子体験教室	3月～11月（月1回）		40	189
	自然観察会	3回（5月，7月，1月）		10	69
	里山アート	3回（6月，9月，11月）		8	22
	市民講座	8月4日	東京情報大学	5	26
調査研究事業	モニ1000調査	通年（月1～2回）	堂谷津の里	60	0
	コドラート調査				
	地層・湧水調査	7月16日（地層観察）		8	10

※堂谷津の里：千葉市谷津田等保全区域（若葉区谷当町）の愛称

参考資料　　会員数の推移と 2019 年度作業従事者数の内訳（従事者数は作業記録による）





第１号議案

２０２０年度　事業報告

１．事業の成果

本年度は 2012 年度の事業着手から数えて 9 年目になります。

これまでの活動により、堂谷津では自然環境の回復が進み、米づくりや森づくり、自然観察など体験の場として「堂谷津の里」の利用価値も高まってきました。現在では、田植や稲刈り、収穫祭、親子体験教室などがイベントとして定着しています。

私たちの活動は環境保全から環境の活用へと活動の幅を広げる時期を迎えていますが、本年度は思いもかけない新型コロナウィルスの感染拡大という事態に遭遇し、これらのイベントをすべて中止することになりました。

本年度の活動は翌年に向けた環境保全が中心となり、その作業の大部分をＮＰＯ会員が担うことになりました。私たちはこの一年を経験し、環境保全に対するイベント参加者の日頃の貢献の大きさを改めて実感しました。

本年度は今後の活動を展望するため、理事会メンバーによる「定款・活動の見直し検討会」を毎月行いましたが、検討会の中で提起された“「堂谷津の里」の来訪者と「堂谷津の里」のかかわりあい”のイメージが現実のものとなりつつあると感じます（図１）。

また、この 9 年間の活動を経験した私たちはこの間の堂谷津周辺の環境の変化（開発）にも意識が向くようになりました。地元谷当町の皆さんからかつての堂谷津や里山生活について教えて頂きましたが、この聞き取り調査は地元との信頼関係を築くだけでなく、現在の環境変化と向き合い将来の地域ビジョンを構想する第一歩に繋がると思います。環境保全区域である「堂谷津の里」を含む地域ビジョンの構想は私たちにとっても重要課題です。地元の皆さんや市役所など関係機関との連携強化が望まれます。

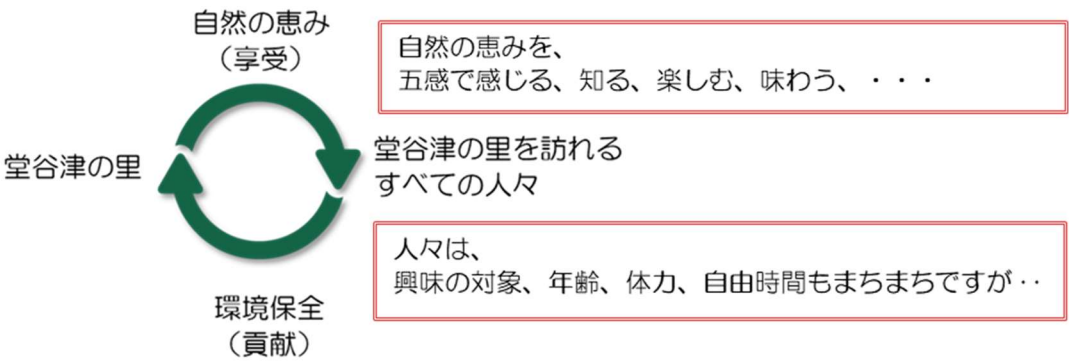


図１　里を訪れる人々がそれぞれの形で環境保全に貢献する　（イメージ）

本年度の米づくりは、急遽、極疎植栽培（うね間 45 ㎝×株間 30 ㎝）に切り替えて人手不足に対応しました。収量面では今後の改善が望まれますが、少ない労力で田の環境を保全す

る狙いは達成できました。

里山林の管理については、前年の度重なる台風によって生じた倒木について助成金を利用しながら伐採を進め、明るい里山林の再生に取り組みました。

調査研究事業については、ニホンアカガエル・ヘイケボタルの生息数調査、モニタリング１０００里地調査を実施するとともに、県生物多様性センターのコドラート調査に協力し「堂谷津の里」の生物相について理解を深めました。また、県環境研究センターの協力を得て湧水（地下水）調査を実施し「堂谷津の里」の水環境の特徴を明らかにしました。調査結果の一部は第 30 回環境地質学シンポジウムで発表しましたが、この調査結果にもとづいて現在、湧水（地下水）の有効利用の実証調査を「堂谷津の里」で実施しています。

本年度取りまとめられた主な成果は、「これまでの調査を踏まえたゾーン別育林計画」、「堂谷津の里・動植物調査」、「渇水への備え―地下水（湧水）の有効利用」などです。これらの成果を今後の活動に生かすようにします。

なお、１１月には、多彩な活動を通して印旛沼流域の自然環境の保全・再生と活用に成果をあげたとして、印旛沼流域水循環健全化会議から第９回印旛沼・流域再生大賞を授与されました。この評価を今後の活動の励みにしたいと思います。

２．事業の実施に関する成果

（１）特定非営利活動に関わる事業

本年度の活動は「堂谷津の里」の環境の維持を中心に実施されましたが、年間作業日数は１０４日、参加者のべ人数は正会員が６１８名、賛助会員が２６４名でした。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益者数
里山再生事業	米の栽培 里山林の整備 動植物の保全	毎週火曜日 毎月第１，第３土曜日	堂谷津の里	802	－
イベント事業	米づくり 収穫祭 親子体験教室 自然観察会 里山アート 市民講座	新型コロナウィルスの感染拡大の状況を考慮してすべて中止とした	堂谷津の里	－	－
調査研究事業	モニ1000調査 コドラート調査 地層・湧水調査	通年 作業日に実施	堂谷津の里	60 20	－ －

※堂谷津の里：千葉市谷津田等保全区域（若葉区谷当町）の愛称

第１号議案

２０２１年度　事業報告（案）

バランス21の活動は今年で10年目を迎えました。谷津田の再生から活動を始め、その後、斜面林・動植物の保全、ビオトープ・自然観察路の整備などへと活動の幅を広げて現在に至っています。最近では「堂谷津の里」の自然を楽しみにイベントで訪れる市民も増え、外部団体との共催イベントや子育て世代の会員による子供の遊び場づくりの試みも始まりました。私たちの活動は新たな視点も取り入れながら「堂谷津の里」の活用を考えていく段階に達しています。

一方、堂谷津周辺をみると資材置き場などが増え、土砂崩れなど「堂谷津の里」への悪影響も現れています。今年度は谷当町や旦谷町の地権者への聞き取り調査や千葉市の環境基本計画策定のためのワークショップに参加しましたが、今後も市役所や地権者など関係者と連携して、開発と自然環境の調和や地域資源としての「堂谷津の里」の維持・活用を図っていく必要があります。

１．事業の成果

（１）里山再生事業

①米づくり（湿田環境の保全）

2021年度も新型コロナの緊急対策として田植えを極疎植（うね間を例年の30㎝から45㎝に拡大）で行いました。これにより例年7～8日を要する田植えが本年度は4日で済み、コロナ禍の労力不足を乗り切ることができました。極疎植栽培には中耕除草機を田植後早期に使用できるメリットも認められ除草作業の効率化に繋がる通常技術としても有望ですが、収量の低下傾向も認められます。今後は収量面から好適なうね間の検討が必要になります。

②里山林の保全

里山林については活動当初の現況を基本に目標林型・森づくり計画をまとめ、整備を進めてきました。2021年度は常緑広葉樹林化ゾーンにスダジイ、アカガシ、シラカシ苗の植樹、ナラ枯れおよび台風被害を受けた落葉広葉樹林の空地にはクヌギ・コナラ実生苗の植樹を行いました。あわせて散策路の整備に継続的に取り組み、本年度は新たな散策路を開拓・整備しました。

ナラ枯れ病は現在コナラを中心に76本の被害が確認されています（2021年10月現在）。ナラ枯れ被害木や風倒木については散策路周辺を中心に一部委託し、千葉市役所の支援も受けて伐採を進めました。

③動植物の保全

動植物の保全については斜面林の草刈りや貴重種、里山の指標昆虫、ホタルやメダカなどの生育・生息環境の整備や自然観察路の維持管理を行いました。また、毎月、ミニ観察を作業に組み入れて実施、動植物の実態を把握し保全に生かすようにしました。ビオトープは自然と触れ合う場と

して木道やミニ田んぼなどを維持管理するとともに、田んぼの用水確保のために堰や土水路を補修して水がめとしての機能の維持に努めました。

季節ごとに観察される動植物は毎月「自然たより」にまとめて、ホームページに公開し「堂谷津の里」の魅力発信に努めました。

（２）イベント事業

2021年度も昨年度同様、新型コロナウィルスが感染拡大と収束を繰り返す一年となりました。昨年度はすべてのイベントを中止にしましたが、本年度は規模を縮小するなど感染防止対策を徹底して米づくり体験や収穫祭、親子体験教室、自然観察会、里山あそびなどのイベントを開催しました。また、千葉市観光協会や千葉自然学校、ちば里山センターなどの外部団体と共同で自然観察会や里山体験も開催しました。本年度のイベント参加者はのべ384名でした。

「堂谷津の里」では子育て世代の会員による子供の遊び場づくりの試みも始まっています。今後は「堂谷津の里」を多くの方々のアイデアで幅広く活用できるよう、外部団体などとの連携も深める必要があります。

（３）教育・研究事業

調査研究事業については、ニホンアカガエル・ヘイケボタルの生息数調査、モニタリング1000里地調査（チョウ類、ホタル類・カエル類）を実施するとともに、県生物多様性センターのコドラート調査に協力し「堂谷津の里」の生物相について理解を深めました。本年度は「堂谷津の里」の地層・湧水（地下水）をテーマに千葉県環境研究センターによる出前講座を実施しました。また、会員にはニュースレター「堂谷津の里から」を6回発行し日頃の活動の様子を伝えました。

２．事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業

コロナ禍の一年でしたが、里山再生事業、イベント事業、調査・研究事業の従事者はのべ863名に達しました（作業日数は109日）。イベント参加者は384名でした（表１）。

（２）活動の実施体制

会員数は2022年3月末現在、正会員24名、賛助会員19名となっています（図１）。作業の年間従事者数の内訳をみると正会員が70％、賛助会員が30％を占め賛助会員の貢献度が高まっています。また、参加者の内訳を曜日別にみると土曜日の割合が28％と高くなっています。最近は子育て世代（現役世代）が活動に積極的に参加するようになり、今後、土曜日の定例作業日の重要性が増すものと思われます（図２）。

表1　活動実績 （2021年度）

2021/4/1～2022/3/31

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益者数
里山再生事業	米の栽培 里山林の整備 動植物の保全	毎週火曜日 毎月第1，第3土曜日	堂谷津の里※	650	0
イベント事業	米づくり	4月3日（種まき）、5月2日（田植）、8月24日（稲刈り）	堂谷津の里	45	49
	収穫祭	11月3日		17	26
	親子体験教室	4月～11月（月1回）		51	161
	自然観察会	4月13日、11月6日、3月5日		9	46
	里山あそび	12月18日（お正月飾り）、3月26日（ヨモギ餅）		10	34
イベント事業（共催）	自然観察、里山体験	6月12日、6月24日、7月11日、7月18日、2月5日	堂谷津の里	13	55
調査研究事業	モニ1000調査	通年	堂谷津の里	60	0
	コドラート調査	5月20日、11月30日（千葉県生物多様性センターと協働）		8	0
	地層・地下水調査	10月26日（出前講座、講師派遣：県環境研）			13

注）イベント共催団体：千葉市観光協会、千葉自然学校、NPO法人ESD-j、あーす楽園、ちば里山センター
　堂谷津の里：千葉市谷津田等保全区域（若葉区谷当町）の愛称

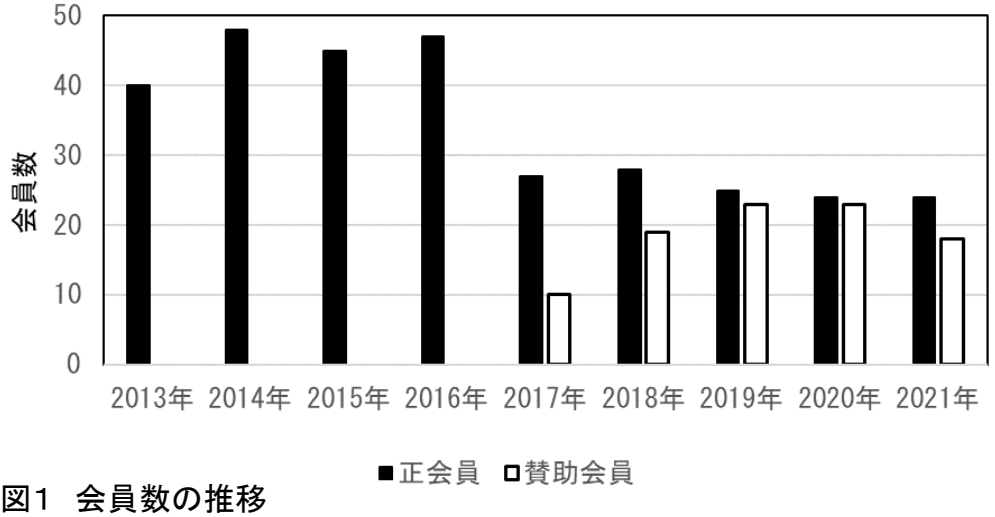


図1　会員数の推移

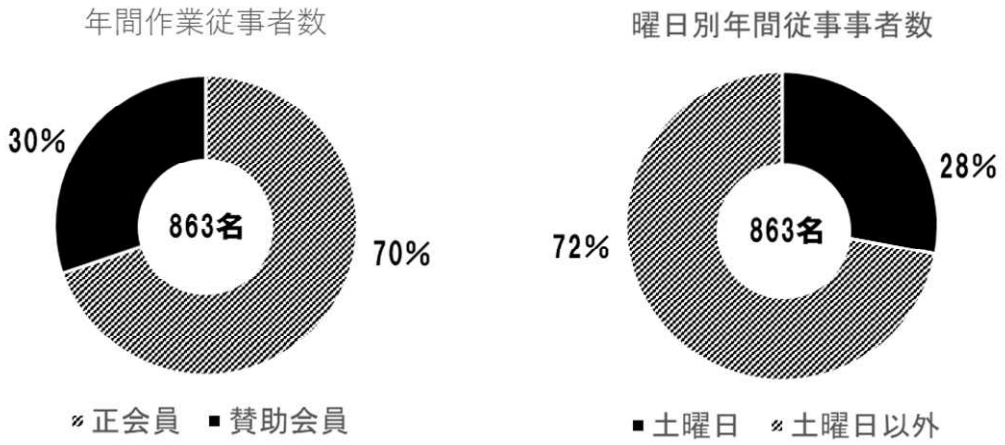


図2　作業従事者数の内訳